てんとうむしプロジェクト03 京都芸術倶楽部
TENTOUMUSHI Project 03 KYOTO ART CLUB

京都芸術センターの
アートコーディネーターの
過去・現在・未来

アートな
いっぷく

ハンドでおしゃべり

everyday
PARTY

毛筆 brush&ink
日本文化を楽しむ

館長と
ボランティアと
アートと
民主主義を
語る

次長“嶋”の
アート出張報告

手芸あそび

京都芸術倶楽部
KYOTO ART CLUB
ARCHIVE

2012.3.20 — 3.25

五代目
坂東玉三郎の
舞踊について

てんとうむし
のおとしもの

福のり子さん と
アート鑑賞を語る

アートセンター
フィンと語る

テント虫

ミニチュアの
世界

創生座
勉強会

KACで
KACと
KACを語る

KACボランティア
大いに語る

映画について

ボランティアさん
に話を聞いてみた

歴代てんとうむし
プロジェクト の
みなさんの話 を
聞いて みた

画廊めぐりと
小吹さん

KYOTO
ART
CENTER
京都芸術センター

早川七月
–
挨拶文

「京都芸術倶楽部」は3年目を迎えるてんとうむしプロジェクトによって発足した，ボランティアスタッフがボランティアの自主性について考え取り組む倶楽部である。私自身，本プロジェクト内でボランティアスタッフとして，ボランティアについて考えるためのトークイベントを行った。ボランティア活動について，ボランティアスタッフと京都芸術センターの双方がより活気づくための答えやヒントを求めていた。しかし，ヒントは見つかっても，答えや具体的な策は見つからなかった。そのヒントとは，この先も「ボランティアについて考え続けることの大切さ」だ。だが，考え方を変えれば，この考え続けること自体が答えだったのかもしれない。そして，その答えをひとつのきっかけとして本報告書を作成した。報告書作成に関わった人はみなボランティアだ。その人たちは「ボランティア」をしようという心構えよりも，「いい報告書をつくりたい」という気持ちが強かったのではないだろうか。そんな方々に囲まれ報告書を作成する中で「ボランティア」とは，「自主性」とは，と考える場面が幾度もあった。これこそが，「京都芸術倶楽部」が気付かせてくれた「考えることを継続すること」なのだろう。この報告書も「京都芸術倶楽部」のように，「ボランティア」について「自主的」に活動することについて考えるキッカケとなるモノでありたい。 この春から，てんとうむしプロジェクトの事業から離れて，「京都芸術倶楽部」は京都芸術センターのボランティアスタッフの自主的な活動のもと継続する。もちろん，自主的に「何か」をやりたいと言う声がある限り。

京都芸術センター ボランティアスタッフ
早川七月

CONTENTS

001	挨拶文
002	目次
003	てんとうむしプロジェクト•京都芸術倶楽部とは
004	「京都芸術倶楽部」コンセプト
005–009	寄稿
010–011	「京都芸術倶楽部」総合フライヤー
012	プロジェクト準備期間
013–031	プロジェクト紹介
032–034	その他広報物紹介
035–036	「京都芸術倶楽部」twitterの記録
037–038	アンケート
039	編集後記

てんとうむし プロジェクト とは

京都芸術センターでは，芸術文化の分野における創造的活動を支援し，それらの振興と普及を図るため様々な事業を展開しています。中でも，本企画「てんとうむしプロジェクト」は，2010年京都芸術センター開設10周年の記念事業としてスタートし，京都芸術センターで活動する大学生から80歳代の約240名のボランティアスタッフと共にアートプロジェクトを運営しています。

【2010年－2012年のてんとうむしプロジェクト】

タイトル｜てんとうむしプロジェクト「未来への素振り」
出展｜小山田徹 伊達伸明　　会期｜2010年3月5日（金）－3月28日（日）
担当コーディネーター｜安河内宏法

タイトル｜wah document÷てんとうむしプロジェクト
「tightrope walking―てんとうむしのつなわたり」
出展｜wah document
会期｜2011年3月8日（火）－3月27日（日）　担当コーディネーター｜清澤暁子

タイトル｜てんとうむしプロジェクト03「京都芸術倶楽部」
コンセプトメイキング｜藤本由紀夫
会期｜2012年3月20日（火）－3月25日（日）　担当コーディネーター｜山本恵子

京都芸術倶楽部 とは

この文章は総合フライヤーに
掲載されていたものです。

鑑賞者，そしてアートの現場を支える京都芸術センターのボランティアスタッフ，彼らと共に考え，はじめること。てんとうむしプロジェクト03では，コンセプトメイキングに藤本由紀夫を迎え，「京都芸術倶楽部」を結成します。
今回のプロジェクトを進めるにあたり，まず始めたこと，それは，ボランティアスタッフが京都芸術センターで何を考えながら活動し，アートとどのような関係を築いているのかを見つめるための「話し合い」でした。
その内容は，アートに関わる現場であれば避けることのできない「展覧会とは何か」，「ボランティアとは？」等，根本的な問い。その中から見えてきたボランティアスタッフにおける共通点は，アートに興味関心を持ち，何より好きであるということでした。
一方で，浮き彫りになった，アートが何かを変えてくれると待つにとどまる現状。
その現状を少し変える一自発的になにかをつくるというアートの種こそ「京都芸術倶楽部」です。6日間だけ存在する京都芸術倶楽部でどのようにスペースを作り，何をするのか，すべてボランティアスタッフが考えます。 今回，ボランティアスタッフに新しく蒔かれた種は，ゼロから何かをつくるということであり，それはアーティストが作品をつくるということと同じこと。
考えること，そして始めることをみせる6日間の実験がはじまります。

コンセプト
—
何かをつくる

この文章は総合フライヤーに
掲載されていたものです。

私はC.A.P.(芸術と計画会議)に立ち上げから関わって今年で18年目となる。
私の人生においてこれほど長く一つの組織に所属したことはない。
CAPはアーティスト達の集まりから始まった。社会に対して何かをしてみようという考えから始めたもので，誰からも期待されたものでもなく，誰かの為にやろうとするのでもなく「何だかわからないけど面白そうなことができそうだ」というところから始め，現在もその気持ちは変わっていない。
「何かをつくる」ということにおいて，アーティストとして作品を制作することと，CAPのメンバーとして活動をすることは何ら変わりがない。
ただアーティスト活動はわたしにとって営利活動である。それに対しCAPでの活動は私にとって「無償の自発的行為」である。即ちボランティアである。
今回，京都芸術センターのボランティアの方達が，何か面白そうな事をつくろうとしている。何かをつくるということは，大変なことが多いが，その分，何とも言えない面白さを体験することができる。その「面白さ」は共有できるものだと私は確信している。

注：C.A.P.(特定非営利活動法人 芸術と計画会議)
神戸を拠点として社会とアートを繋ぐ様々な活動を行っている。
http://www.cap-kobe.com/

藤本由紀夫
FUJIMOTO yukio

1950年名古屋生まれ。大阪芸術大学音楽学科卒。主な個展に1997年から2006年まで10年間毎年1日のみ開催された展覧会「美術館の遠足」西宮市大谷記念美術館(兵庫)，2001「四次元の読書」CCGA現代グラフィックアートセンター(福島)，2006年「ここ，そして，そこ」名古屋市美術館(名古屋)，2007年「ECHO - 潜在的音響」広島市現代美術館(広島)，「哲学的玩具」西宮市大谷記念美術館(兵庫)，「+/-」国立国際美術館(大阪)，「関係」和歌山県立近代美術館(和歌山)など。
主なグループ展に2001年「第49回ヴェニス・ビエンナーレ」，2007年「第52回ヴェニス・ビエンナーレ」(ヴェニス)など。80年代半ばより日常のなかの「音」に着目した装置，サウンド・オブジェを制作。インスタレーションやパフォーマンス，ワークショップを通じて，空間における「音」の体験から新たな認識へと開かれていくような活動を展開している。

山本恵子

京都芸術倶楽部がみせてくれたもの

てんとうむしプロジェクト03が見せてくれたもの―それは自発的な行為そのものであり，それらの自発性が総じてもっていた，ボランティア同士，または観客との「コミュニケーション」の問題意識。さらには，鑑賞者とアートのつなぎ手としての可能性であった。

2011年度で3回目となる，てんとうむしプロジェクト03では，サウンドアーティストの藤本由紀夫氏を招聘し，京都芸術センターのボランティアスタッフとアートプロジェクトを進めた。

まずは，このアーティストの選択からふれていく。なぜ，藤本氏にこのプロジェクトを依頼したのか，その理由は複数あるが，藤本氏が京都芸術センターやボランティアスタッフが「嫌い」であるということが最も大きな理由だった。展覧会の監視業務を担当するボランティアスタッフとアーティストの関係は重要であり，同時に様々な場面で問題となってきた。施設やスタッフ，そして作家との関係，その現状を否定する，何等かの新たな視点を藤本氏に期待したのである。

また，藤本氏が日本のボランティアそのものに疑問を持っている点も招聘の理由だった。彼は，美術館などにおいて様々な展覧会を開催してきたが，ボランティアスタッフと共に何かをすることはなかったという。それは，藤本自身が考えるボランティアというものの本質と日本にある現状のボランティアに相違があるためだ。ボランティアは，自発(自主)性，無償(無給)性，利他(社会，公共，公益)性に基づく活動と定義されている。そうして，日本のボランティアの現状は，ボランティアをはじめるところに自発性があり，活動自体はそれぞれのグループの指示母体に従って行われるのが大半といえるだろう。プロが自身の能力を生かしてボランティア活動をすることも多いのに対し，日本のボランティア活動はどうだろうか。ではそんな中，京都芸術センターのボランティアスタッフとともにできること，そして足りないものとは何か，これらを念頭にプロジェクトではボランティアスタッフと藤本氏によるミーティングを中心に進めた。

話合いの中心には常に，京都芸術センターをどのように思っているのか，そしてボランティアスタッフとして何を目的に活動しているのかという問題をおき，話し合いを重ねた。今考えてみると，それらの問いはボランティアスタッフを抱える施設に大きく共通する問題ばかりであった。簡単なことだが，施設で活動するボランティアスタッフの声を常に聞いている施設が全国にどれぐらい存在するのだろう。様々な施設で，ボランティアスタッフとの問題を耳にするが，原因の一つは施設側のボランティアからの「声を聞く」姿勢の欠如であり，京都芸術センターの現状もこれに他ならなかった。

これらの話合いから浮き彫りになったことは，ボランティアスタッフが京都芸術センターに依頼されたサポートを行うのみであったという実態，ともすれば施設側は具体的なボランティアスタッフのミッションなどを示さず，受動的なことだけを求めてきた結果ともいえるだろう。そこで藤本氏は，半年間のミーティングを通して，「京都芸術倶楽部＝自発的に何かを実行すること」という，方向の転換を示唆したのである。

企画から実行までをすべて，ボランティアスタッフが担当し，スタッフとアーティス

山本恵子
–
京都芸術倶楽部がみせてくれたもの

トはそのサポートをするという，通常の展覧会等における構図とは逆の関係で実行した本プロジェクト。だが，「すべて」とあるように，ボランティアスタッフは自身のできる範囲で企画実行を行いつつ，一方で自分にしかできないことで企画を考えた。少しずつではあるが，自発的に考え行動するボランティアスタッフの本来的な姿に近づきつつあった。

その日々は，少なからずボランティアスタッフに変化を与えた。プロジェクトの当初は，一から十までをスタッフに訪ねて進めていたイベントも最終日となれば自発的に判断し，より充実した方向を模索するようになっていた。当たり前の成果といえばそれに過ぎないかもしれないが，そこには明らかに自発性があり，今までのボランティア活動の範囲を大きく超えていたといえる。

ここで，この変化が鑑賞者や主体的にかかわっていない他のボランティアにどのような影響を与えたのか考えてみる必要がある。ある来館者から，知らない人同士をつなげる役割を今回のイベントにおいてボランティアスタッフが担っていることに驚きを感じたという。近年，アーティストたちがコミュニケーションを問題として作品制作を行う一方で，京都芸術センターのボランティアスタッフは観客にアーティストと同様の感覚を与えていたといえる。さらにいえば，ホワイトキューブの空間で自由に過ごす様を見せられ，そこに鑑賞者自身が入り込むことは，究極的にインタラクティブな作品と言い換えることもできるだろう。それは決して偶然ではなく，ボランティアスタッフが考えた企画のすべては人とのコミュニケーションを必要とする，または目指すものであり，彼らは意識的にその問題に向かっていったのである。

また，通常の活動である「監視」もボランティアスタッフにお願いした。もちろん，監視する作品展示はない中で，彼らにはハンコを作ったり，来館者と話をしたりとその場で自由に過ごしてもらうことを仕事としてお願いした。結果，主体的にかかわるボランティアスタッフと話をしながら通常のボランティア活動（2時間交代制）よりも長い時間会場に滞在し，プロジェクトを楽しんでいた。彼らが見せてくれたものは，このてんとうむしプロジェクトの広がりそのものであった。

彼らが自発的に何かをする姿は鑑賞者に対し，直接的にコミュニケーションの問題を提案し，その先にあるアートの楽しさをも伝えた。藤本氏がコンセプトの中でも触れているが，現状から脱し，一から何かをつくることは困難や痛みも伴う。しかしながら，その楽しさはアートの根幹であり，それを鑑賞者と立場の近いボランティアスタッフがみせられたことは，このプロジェクトが本来的に求めてきたボランティアスタッフの新たなミッション，アートと鑑賞者のつなぎ手となる可能性が京都芸術センターのボランティアスタッフにあるということを示しているのではないだろうか。彼らの，小さな変化がこれからの京都芸術センターを変えていく，と期待している。

2012年てんとうむしプロジェクト担当
山本恵子

清澤暁子
–
アートの大地に種を蒔いた

2010年に始まったボランティアスタッフとの共同企画「てんとうむしプロジェクト」も，「京都芸術倶楽部」で3回目となる。立場，年代，活動内容ともに大きな幅のあるボランティアスタッフが，京都芸術センターでアートに接する中で，少しずつ積み重ねてきたそれぞれの価値観や思い。そうした実感をすくい上げることが，いずれのプロジェクトにも共通するテーマだったといえる。

私が担当した2回目の「tightrope walking－てんとうむしのつなわたり」では，実現させるプロジェクト・アイデアを，いつもならアーティストが選ぶところを，あえてボランティアさんによる審査で選んだ。それは，彼らの実感を頼りに，アーティストとボランティアスタッフの関係を逆転させて，ボランティアが企画の原動力となる場を作る試みだった。

今回，ボランティアさんたちは「京都芸術倶楽部」なるものを立ち上げ，その6日間を自らが企画，運営するさまざまなイベントで構成した。会場には，アーティストが制作した「作品」はない。代わりに，ボランティアさんひとりひとりの思いが形になった沢山のイベントが散りばめられた。みんなで手芸をする，古典芸能や映画について語る，歴代アートコーディネーターの話を聞く，あるいはパーティーを開いて人と知り合う等々，あらゆる方向へ広がるイベント。それは，各ボランティアさんから「芸術＝アート」へと伸びるいくつもの道筋にも見えた。

アーティストが制作する作品をアートとして受け止めるだけでなく，こちら側からアートへと続く個人的な道を引いてみる。そんな道筋がたくさん引かれることで，アーティストとも鑑賞者とも違った角度から，もっと立体的で多面的なアートが浮かび上がるかもしれない。てんとうむしプロジェクトは，大きな挑戦へとつながりそうだ。

今回ボランティアさんたちに蒔かれた種が，「自発的になにかをつくる」という「アートの種」ならば，芽生えたばかりの京都芸術倶楽部の活動は，すでにアートの大地にたくさんの種を蒔いたといえる。どんな実を結ぶかまだわからないが，種は大きい。てんとうむしプロジェクトの手で大切に育てていってほしい。

2011年てんとうむしプロジェクト担当
清澤暁子

安河内宏法
–
共有

「てんとうむしプロジェクト」という名のもので行われた「未来への素振り」,「tightrope walking―てんとうむしのつなわたり」,「京都芸術倶楽部」の3つのプロジェクトは,それぞれに違った方法で違ったかたちの共有の回路を作ろうと試みてきた。そうした試みは,果たして成功したのだろうか。

様々に応えうるこの問いに対して,僕はあえて失敗したと応えたい。共有の失敗にこそ,このプロジェクトの価値があるのだ,と。

僕たちは自分の感情や感覚を他人と共有することが出来ない。そうした共有不可能なものが蓄積し,人の固有性は形作られる。とすれば,〈わたし〉と別の〈わたし〉との間にある隔たりを「コミュニケーション」や「共有」という聞こえの良い言葉によって架橋することは慎まなければならない。隔たりを超えようと試みたが,失敗した。こうした失敗を作り出すことこそ,言い換えれば「共有できないという事実を共有する」ことこそ,固有性を持った多様な人々が協働するてんとうむしプロジェクトの最大の成果であり,可能性であるのだ。

ところで,プロジェクトの成果や可能性をこのように措定する時,ひとつの疑問が生じるかもしれない。「共有できないという事実を共有する」人々を繋ぎとめるものは何か,というのがそれである。

この疑問に対しては,「アート」によって繋がってきたのだと応えておこう。無論ここでいうアートとは,美術史家や美術評論家の規定するアートと全く違ったもので構わない。個々人が価値があると思い,それに関わることで喜びを覚えることのできるもの,それを暫定的に「アート」と呼んでおく。

そうした意味での「アート」によって,〈わたし〉と別の〈わたし〉が隔たりを持ったまま,関わり合う。「共有できないという事実を共有」し,それでも別の〈わたし〉へと「アート」を伝えようとする。てんとうむしプロジェクトが今後もそうした関係性を作ることを目指すのであれば,僕はそれを全力で肯定する。

2010年てんとうむしプロジェクト担当
安河内宏法

奥脇嵩大
–
てんとうむしの
その後の行方

「てんとうむしプロジェクト」について語る前に，まず京都芸術センターのボランティアさんについて書いてみようと思う。私が2年前，アートコーディネーターの仕事を始めたとき，担当した仕事の一つがボランティアだった。当時私は大学を出たてで，社会経験などないに等しいペーペー。初めの頃はお手伝いいただいていた，ギャラリーの作品監視等の合間を縫って，ボランティアさんのお話ばかり聴いてばかりいた覚えがある。その中で，私が強く印象付けられたのが，ボランティアさんのもつ「アート」への関心の深さである。もちろん文化施設にボランティアに来ようという方々なので，大なり小なり皆さんアート愛好家である。しかし作品の中身にまで突っ込んで「この時に芸術センターで見た作品は良かったけど，この作品どこがええのん？」といった反応には，その都度たじたじだったものだ。

しかし辛口な意識は，あくまでアート愛好家の域を出るものではなく，好みを話題にした親しい者同士のお喋りで登場することが多かった。アートが話題になって，人と人との間を取りもつ。アートが機能している現場のひとつの姿といえよう。そして「てんとうむしプロジェクト」を経験して以来，ボランティアさんたちのアートへの姿勢は少し変わったように思う。彼らは作品を作るということに対しても日常に近づけて考えるようになった。

「てんとうむしプロジェクト」は，10年分のボランティア活動によって育まれた，ボランティアさんそれぞれのアートに対する実感を背景に生まれた側面がある。1年目の「未来への素振り」，2年目の「tightrope walking―てんとうむしのつなわたり」では，「展覧会」というフレームの中で，ボランティアさんが作家とできることを考えることを始めたように思う。そうして3年目の「京都芸術倶楽部」で，ボランティアさんは自らのやってみたいことを形にする第一歩を踏み出した。アート愛好家を越えて，京都芸術センターと一緒に何ができるかを考えるボランティアさんの姿をみて私は，現代の「アート」に，新しいかたちが生まれる瞬間に立ち会った気がしている。てんとうむしがどこに行くのか，それはてんとうむしにしか分からないが，今後も行方を見守っていきたい。

京都芸術センター　アートコーディネーター
奥脇嵩大

KYOTO ART CLUB

京都芸術倶楽部
KYOTO ART CLUB

幾つもの「はじめる」による6日間。そして, 何かをつくるということ。

2012.3.20 TUE—3.25 SUN 10:00–20:00
KYOTO ART CENTER
GALLERY NORTH, SOUTH, and OTHERS

京都芸術倶楽部について

鑑賞者、そしてアートの現場を支える京都芸術センターのボランティアスタッフ、彼らと共に考え、はじめること。てんとうむしプロジェクト03では、コンセプトメイキングに藤本由紀夫を迎え、「京都芸術倶楽部」を結成します。
今回のプロジェクトを進めるにあたり、まず始めたこと、それは、ボランティアスタッフが京都芸術センターで何を考えながら活動し、アートとどのような関係を築いているのかを見つめるための「話し合い」でした。
その内容は、アートに関わる現場であれば避けることのできない「展覧会とは何か」、「ボランティアとは？」等、根本的な問い。その中から見えてきたボランティアスタッフにおける共通点は、アートに興味関心を持ち、何より好きであるということでした。一方で、浮き彫りになった、アートが何かを変えてくれると待つにとどまる現状。
その現状を少し変える一自発的になにかをつくるというアートの種こそ「京都芸術倶楽部」です。6日間だけ存在する京都芸術倶楽部でどのようにスペースを作り、何をするのか、すべてボランティアスタッフが考えます。今回、ボランティアスタッフに新しく蒔かれた種は、ゼロから何かをつくるということであり、それはアーティストが作品をつくるということと同じこと。
考えること、そして始めることをみせる6日間の実験がはじまります。

てんとうむしプロジェクト

京都芸術センターでは、芸術文化の分野における創造的活動を支援し、それらの振興と普及を図るため様々な事業を展開しています。中でも、本企画「てんとうむしプロジェクト」は、2010年京都芸術センター開設10周年の記念事業としてスタートし、京都芸術センターで活動する大学生から80歳代の約300名のボランティアスタッフと共にアートプロジェクトを運営しています。

主催‖京都芸術センター　助成‖財団法人地域創造
コンセプトメイキング‖藤本由紀夫〈ボランティア〉
企画・運営‖京都芸術倶楽部〈京都芸術センターボランティアスタッフ有志〉
京都芸術倶楽部代表‖早川七月〈京都芸術センターボランティアスタッフ〉
デザイン‖見増勇介〈ボランティア〉, 大西正一〈ボランティア〉

CONCEPT　何かをつくる

藤本由紀夫

私はC.A.P.(芸術と計画会議)に立ち上げから関わって今年で18年目となる。私の人生においてこれほど長く一つの組織に所属したことはない。
CAPはアーティスト達の集まりから始まった。社会に対して何かをしてみようという考えから始めたもので、誰からも期待されたものでもなく、誰かの為にやろうとするのでもなく「何だかわからないけど面白そうなことができそうだ」というところから始め、現在もその気持ちは変わっていない。
「何かをつくる」ということにおいて、アーティストとして作品を制作することと、CAPのメンバーとして活動をすることは何ら変わりがない。
ただアーティスト活動はわたしにとって営利活動である。それに対しCAPでの活動は私にとって「無償の自発的行為」である。即ちボランティアである。
今回、京都芸術センターのボランティアの方達が、何か面白そうな事をつくろうとしている。何かをつくるということは、大変なことが多いが、その分、何とも言えない面白さを体験することができる。その「面白さ」は共有できるものだと私は確信している。

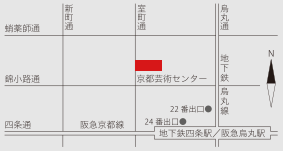
注‖**C.A.P.**｜特定非営利活動法人 芸術と計画会議｜
神戸を拠点として社会とアートを繋ぐ様々な活動を行っている
http://www.cap-kobe.com/

藤本由紀夫 FUJIMOTO Yukio

PROFILE
1950年名古屋生まれ。大阪芸術大学音楽学科卒。主な個展に1997年から2006年まで10年間毎年1日のみ開催された展覧会「美術館の遠足」西宮市大谷記念美術館(兵庫)、2001「四次元の読書」CCGA現代グラフィックアートセンター(福島)、2006年「ここ、そして、そこ」名古屋市美術館(名古屋)、2007年「ECHO—潜在的音響」広島市現代美術館(広島)、「哲学的玩具」西宮市大谷記念美術館(兵庫)、「＋／−」国立国際美術館(大阪)、「関係」和歌山県立近代美術館(和歌山)など。
主なグループ展に2001年「第49回ヴェニス・ビエンナーレ」、2007年「第52回ヴェニス・ビエンナーレ」(ヴェニス)など。80年代半ばより日常のなかの「音」に着目した装置、サウンド・オブジェを制作。インスタレーションやパフォーマンス、ワークショップを通じて、空間における「音」の体験から新たな認識へと開かれていくような活動を展開している。

問い合わせ先‖京都芸術センター
〒604 8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546−2
TELEPHONE 075 213 1000　FACSIMILE 075 213 1004
info@kac.or.jp　http://www.kac.or.jp/

アクセス
JR「京都駅」から地下鉄烏丸線に乗り換え「四条駅」下車, 22・24番出口より徒歩5分
阪急京都線「烏丸駅」22・24番出口より徒歩5分
京阪本線「三条駅」から地下鉄東西線へ乗り換え,「烏丸御池駅」より徒歩10分
駐車場はございません　公共交通機関をご利用ください



てんとうむしプロジェクト03 京都芸術倶楽部
TENTOUMUSHI Project 03 KYOTO ART CLUB

2012.3.20 TUE—3.25 SUN 10:00–20:00

GALLERY NORTH, SOUTH, and OTHERS

KYOTO ART CENTER 京都芸術センター

京都芸術センターの アートコーディネーターの 過去・現在・未来

アートな いっぷく

ハゾヒ ておしゃべり

everyday PARTY

毛筆 brush&ink 日本文化を楽しむ

館長と ボランティアと アートと 民主主義を 語る

次長"嶋"の アート出張報告

手芸あそび

五代目 坂東玉三郎の 舞踊について

京都芸術倶楽部
KYOTO ART CLUB
幾つもの「はじめる」による6日間。そして, 何かをつくるということ。
2012.3.20 TUE—3.25 SUN 10:00–20:00
KYOTO ART CENTER

てんとうむしのおとしもの

福のり子さん と アート鑑賞を語る

アートセンターワイワイと語る

テント虫

世界

創生座 勉強会

KACで KACと KACを語る

KACボランティアさいて語る

映画

ボランティアさん に話を聞いてみた

歴代てんとうむしプロジェクトのみなさんの話を聞いてみた

画廊めぐりと小吹さん

events

イベント一覧

各イベントに関する詳細情報・内容等は、ウェブサイト（http://www.kac.or.jp/）をご参照ください

※各イベントについては、変更となる場合がございます、ご了承ください
※お越しの際は、ウェブサイトをご確認ください
※一部のイベントを除き、事前申込み不要です　混雑時にはお待ちいただくことがございます

3月20日–25日（終日）

てんとうむしのおとしもの

EXHIBITION
てんとうむしのおとしもの
館内｜3月20日–25日

毛筆 brush&ink 日本文化を楽しむ

WORKSHOP & EXHIBITION
毛筆——日本文化を楽しむ—— *brush & ink*
ギャラリー北, ワークショップルーム｜3月20日–25日

テント虫

SPACE
テント虫
ギャラリー南｜3月20日–25日

ハンコ ヒ ワークショップ

WORKSHOP
はんこでおしゃべり
ギャラリー南｜3月20日–25日

3月20日（火・祝）

福のり子さんとアート鑑賞を語る

TALK
福のり子さんとアート鑑賞を語る
ギャラリー南｜13:00–14:00
ゲスト：福のり子｜京都造形芸術大学教授｜
聞き手：藤井幹明｜ボランティアスタッフ｜

歴代てんとうむしプロジェクトのみなさんの話を聞いてみた

TALK
歴代てんとうむしプロジェクト担当のみなさんの話を聞いてみた
ギャラリー南｜14:30–15:30
ゲスト：安河内宏法｜京都市美術館学芸員｜
清澤暁子
山本恵子｜京都芸術センターアートコーディネーター｜
聞き手：早川七月｜ボランティアスタッフ｜

京都芸術センターのアートコーディネーターの 過去・現在・未来

TALK
京都芸術センターのアートコーディネーターの過去・現在・未来 1
ギャラリー南｜16:00–17:00
ゲスト：山本恵子
川崎陽子｜京都芸術センターアートコーディネーター｜

京都芸術センターのアートコーディネーターの 過去・現在・未来

TALK
京都芸術センターのアートコーディネーターの過去・現在・未来 2
ギャラリー南｜17:00–18:00
ゲスト：青嶋絢｜京都市立芸術大学
国際交流室インターナショナル・コーディネーター｜
福島尚子
清澤暁子

京都芸術センターのアートコーディネーターの 過去・現在・未来

TALK
京都芸術センターのアートコーディネーターの過去・現在・未来 3
ギャラリー南｜18:00–19:00）
ゲスト：丸井重樹｜KYOTO EXPERIMENT事務局｜
日和香｜吹田メイシアター｜

everyday PARTY

PARTY
オープニングパーティ
ギャラリー南｜19:00–

3月21日（水）

手芸あそび

WORKSHOP
手芸あそび
ギャラリー南｜10:00–12:00
講師：西野文子｜ボランティアスタッフ｜

everyday PARTY

PARTY
EVERYDAY PARTY
ギャラリー南｜12:00–13:00

京都芸術センターのアートコーディネーターの 過去・現在・未来

TALK
京都芸術センターのアートコーディネーターの過去・現在・未来 4
ギャラリー南｜13:00–14:00
ゲスト：奥脇嵩大｜京都芸術センターアートコーディネーター｜
藤田瑞穂｜京都芸術センターアートコーディネーター｜

五代目坂東玉三郎の舞踊について

TALK
五代目坂東玉三郎の舞踊ついて
ギャラリー南｜14:30–16:00
ゲスト：倉本直治｜ボランティアスタッフ｜

館長とボランティアとアートと民主主義を語る

TALK
館長とボランティアとアートと民主主義を語る
ギャラリー南｜16:30–18:00
ゲスト：富永茂樹｜京都芸術センター館長｜
由里啓子｜京都芸術センター事務局長｜
聞き手：藤井幹明

創生座 勉強会

TALK
「第13回古典芸能自主勉強会」“松と桜” シリーズ ⑥
能楽「西行桜」
ギャラリー南｜18:30–20:00
進行：濱崎ナツコ｜ボランティアスタッフ, 京都創生座サポートスタッフ｜
谷由利子｜ボランティアスタッフ, 京都創生座サポートスタッフ｜
平野徹｜ボランティアスタッフ, 京都創生座サポートスタッフ｜

3月22日（木）

京都芸術センターのアートコーディネーターの 過去・現在・未来

TALK
京都芸術センターのアートコーディネーターの過去・現在・未来 5
ギャラリー南｜13:00–14:00
ゲスト：勝冶真美｜京都芸術センターアートコーディネーター｜
上村絵梨子｜京都芸術センターアートコーディネーター（平成24年4月から）｜

アートないっぷく

PARTY
EVERYDAY PARTY　アートないっぷく
ギャラリー南｜14:00–15:30

KACボランティアチャンピオンを語る

TALK
KACボランティア大いに語る
ギャラリー南｜16:00–17:30
ゲスト：ボランティアスタッフ
進行：山本恵子

京都芸術センターのアートコーディネーターの 過去・現在・未来

TALK
京都芸術センターのアートコーディネーターの過去・現在・未来 6
ギャラリー南｜17:30–18:30
ゲスト：牧口千夏｜京都国立近代美術館研究員｜
林朋子｜大阪市立大学都市研究プラザ特任助教｜
多胡真佐子
萩原麗子｜京都芸術センタープログラムディレクター｜

KACでKACとKACを語る

TALK
KACでKACとKACを語る
ギャラリー南｜18:30–20:00
ゲスト：藤森哲朗｜京都アートカウンシル代表｜
聞き手：藤井幹明

3月23日（金）

手芸あそび

WORKSHOP
手芸あそび
ギャラリー南｜10:00–12:00
講師：西野文子

画廊小吹

TOUR
小吹さんと画廊めぐり
集合：本能寺前｜13:00 ※2時間程度を予定
講師：小吹隆文｜美術ライター｜
コース：寺町三条〜河原町周辺
定員：10名（要事前申込、先着順）
詳しくは公式ウェブサイト（http://www.kac.or.jp/）へ

京都芸術センターのアートコーディネーターの 過去・現在・未来

TALK
京都芸術センターのアートコーディネーターの過去・現在・未来 7
ギャラリー南｜15:00–16:00
ゲスト：新井淳子
山本麻友美｜京都芸術センタープログラムディレクター｜

京都芸術センターのアートコーディネーターの 過去・現在・未来

TALK
京都芸術センターのアートコーディネーターの過去・現在・未来 8
ギャラリー南｜16:00–17:00
ゲスト：植田憲司｜NTTインターコミュニケーション・センター［ICC］学芸員｜

次長“嶋”のアート出張報告

TALK
次長嶋のアート出張報告
ギャラリー南｜17:30–18:30
ゲスト：嶋佳子｜京都芸術センター事務局次長｜
萩原麗子
聞き手：藤井幹明

3月24日（土）

everyday PARTY

PARTY
EVERYDAY PARTY
ギャラリー南｜11:00–13:00

画廊小吹

TOUR
小吹さんと画廊めぐり
集合：地下鉄東西線「蹴上」出口（浄水場方面出口）｜13:00
※2時間程度を予定
講師：小吹隆文｜美術ライター｜
コース：蹴上〜東大路三条周辺
定員：10名（要事前申込、先着順）詳しくは公式ウェブサイト（http://www.kac.or.jp/）へ

京都芸術センターのアートコーディネーターの 過去・現在・未来

TALK
京都芸術センターのアートコーディネーターの過去・現在・未来 9
ギャラリー南｜17:00–18:00
ゲスト：井原麗奈｜神戸国際芸術祭実行委員会事務局長｜

映画

京都シネマ KYOTO CINEMA

TALK
映画について
ギャラリー南｜18:30–20:00
ゲスト：谷口正樹｜京都シネマ｜
聞き手：原井三千子｜ボランティアスタッフ｜

3月25日（日）

京都芸術センターのアートコーディネーターの 過去・現在・未来

TALK
京都芸術センターのアートコーディネーターの過去・現在・未来 10
ギャラリー南｜11:00–12:00
ゲスト：松浦友｜演出家／演劇ユニットYOU企画主宰｜

世界

TALK
ミニチュアの世界
ギャラリー南｜13:00–14:30
ゲスト：倉本直治

京都芸術センターのアートコーディネーターの 過去・現在・未来

TALK
京都芸術センターのアートコーディネーターの過去・現在・未来 11
ギャラリー南｜15:00–16:00
ゲスト：田嶋結菜｜「地点」制作｜
小島寛大｜ANJ｜

ボランティアさんに話を聞いてみた

TALK
ボランティアさんに話を聞いてみたPart1
ギャラリー南｜16:00–17:30
ゲスト：若手ボランティアスタッフ
聞き手：早川七月

ボランティアさんに話を聞いてみた

TALK
ボランティアさんに話を聞いてみたPart2
ギャラリー南｜17:30–19:00
ゲスト：ベテランボランティアスタッフ
聞き手：早川七月

everyday PARTY

PARTY
クロージングパーティ
ギャラリー南｜19:00–

プロジェクト
準備期間

京都芸術倶楽部を語るにおいて忘れてはいけないのは，会期を迎えるまでに何度も何度も行われてきたミーティングの存在だ。担当アートコーディネーターとボランティアスタッフ，時に藤本由紀夫氏は毎回２時間ほどの話し合いを重ねてきた。準備の期間も含めて「京都芸術倶楽部」なのだ。

8月｜第1回目のミーティング。はじめて藤本さんとボランティアさんを交えてお話をしました。

9月｜第2回目のミーティング。

10月｜第3回目のミーティング。

12月｜第4回目のミーティング。

1月｜第5回目はCAPを訪問。ここで「京都芸術倶楽部」の概要が藤本さんから発表されました。
第6回目はデザインミーティング。デザイナーのお二人をお招きし，ボランティアさんたちと藤本さんのお話を反映させながらロゴのデザインを決定しました。

2月｜第7回目は個人ミーティング。担当コーディネーターの山本恵子さんと少人数で話し合いをして，具体的な企画案を出していきました。
第8回目は会期6日間のプログラムを決定しました。
数回にわたって，各イベントの細かいミーティングを担当のボランティアさんのみなさんと行いました。

3月｜買い出しツアー。ボランティアさんたちとEVERYDAYパーティーで使用するためのお菓子などを求めて河原町へ繰り出しました。
搬入。数日にわたって行いました。テントの設営から，机やイスの設置。ボランティアさんの作品の展示など，会場が日に日に「京都芸術倶楽部」の雰囲気を作っていくようでした。

3月20日｜展覧会初日

てんとうむしのおとしもの

3月20ー3月25日
–
館内全体

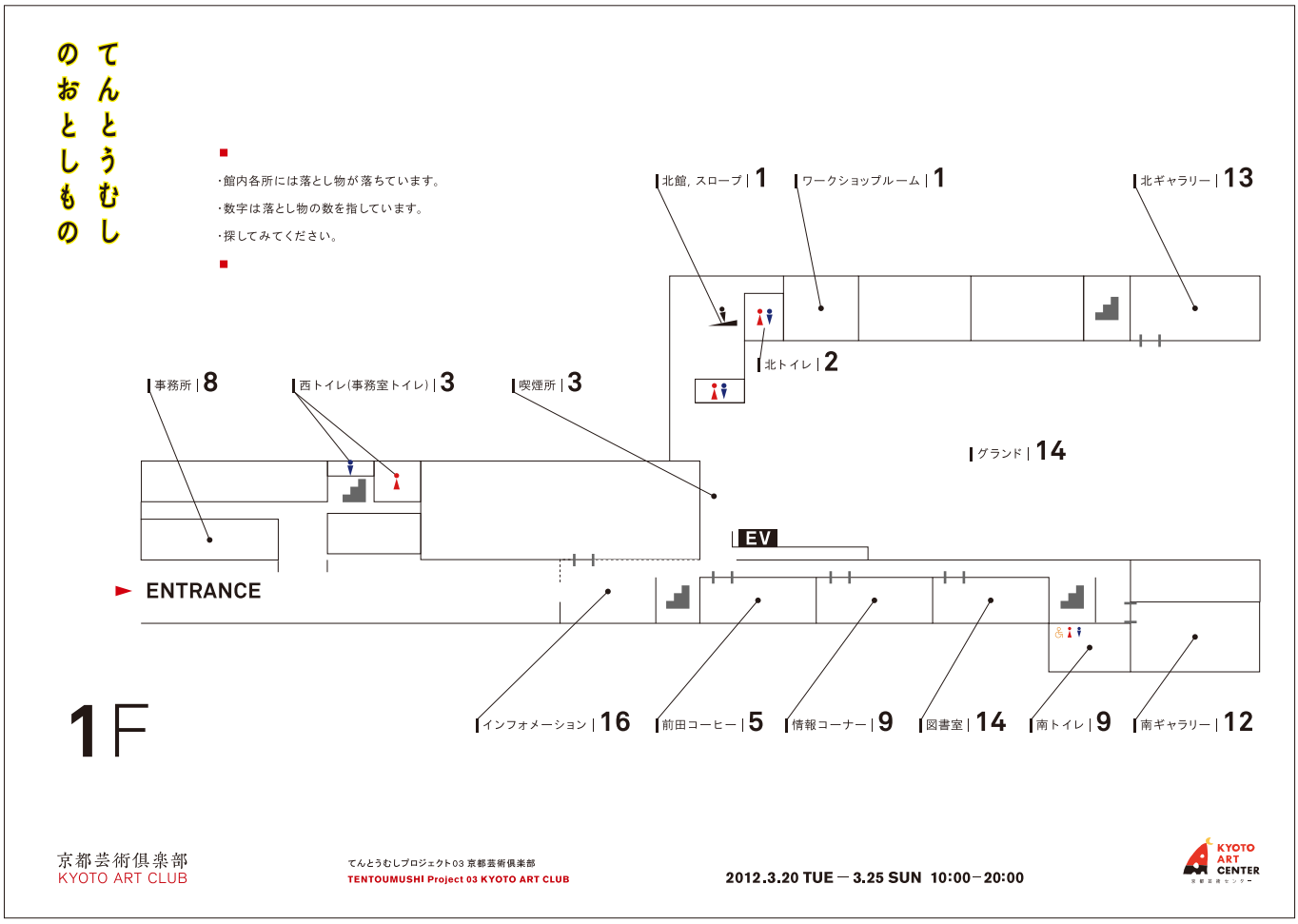
|内容|

ハンカチやメガネ，落とすはずのないズボンや台本などセンターに保管されている落とし物を再び館内に落とし，来館者にその落とし物から落とし主のことを想像してもらった（想像してもらえなくてもいい）。はたらきものできれい好きなボランティアさんたちによってごみ一つ落ちていないセンターの，あっちこっちに落とし物があるようすが見えた。

|ツイート|

3月14日　@一般の方より

耳より情報！京都芸術センターで20日から開催「てんとうむしプロジェクト」はなんだか不思議なイベントです。お菓子も食べられるらしいし，過去の落とし物がなんとその場に出現しているかも，という。‥お心当たりの方？



てんとうむしプロジェクト03

京都芸術倶楽部
KYOTO ART CLUB

てんとうむしのおとしもの

プロジェクトタイトル

てんとうむしのおとしもの

2012.3.20 tue–3.25 sun
10:00–20:00
会場：館内各所

落とし物、したことありますか？ 落とし物、ひろったことありますか？
「てんとうむしのおとしもの」は、過去にさかのぼって京都芸術センターで拾われた落とし物が今、ふたたび出現しています。こまかいメモの「落とし物記録帳」も展示しています。
ひとつひとつていねいに、館内のどこに、何が、いつ、あったのか……。
そして、ボランティアスタッフによる「おとしもの」もあちこちに落ちています。それに紛れて、もしかするとほんとうの落とし物があるかもしれません。いや、今だって誰かがどこかで「おとしもの」しているはず。日常のこんなあたりまえ、だけど予測不可能な「おとしもの」。「おとしもの」の過去と現在、そしてこれからも不意に訪れつづける落とし物展覧会です。

ボランティアスタッフ
若尾久美

京都芸術倶楽部について
鑑賞者、そしてアートの現場を支える京都芸術センターのボランティアスタッフ、彼らと共に考え、はじめること。てんとうむしプロジェクト03では、コンセプトメイキングに藤本由紀夫を迎え、「京都芸術倶楽部」を結成します。ゼロから何かをつくるということであり、それはアーティストが作品をつくるということと同じこと。考えること、そして始めることをみせる6日間、京都芸術センターでは様々なイベントやワークショップ展覧会をボランティアスタッフの企画により開催します。

てんとうむしプロジェクト
京都芸術センターでは、芸術文化の分野における創造的活動を支援し、それらの振興と普及を図るため様々な事業を展開しています。中でも、本企画「てんとうむしプロジェクト」は、2010年京都芸術センター開設10周年の記念事業としてスタートし、京都芸術センターで活動する大学生から80歳代の約300名のボランティアスタッフと共にアートプロジェクトを運営しています。

毛筆 brush&ink

日本文化を楽しむ

WORKSHOP & EXHIBITHON

–

3月20日ー3月25日

–

ギャラリー北
ワークショップルーム

|内容|

筆を持つこと，墨に触れること。近年，私たちの日常から少し遠くなりつつこれらの文化に触れてみようという主旨の企画。ワークショップルームで来館者に半紙を渡し，純粋に毛筆に触れながら自由に文字や線を書いてもらい，書くこと自体を気軽に楽しんでもらった。その作品をギャラリー北にて展示した。

|ツイート|

3月14日　@一般の方より

3月21日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB

【今日のてんとうむし】本日もたくさんの方にご来場いただきました。毛筆に熱中して２時間ワークショップルームにこもる人。トークに参加して思わずパーティでお菓子を食べた人。参加された皆さんのネームシールで青の壁面も覆われつつあります。

テント虫

SPACE

–

3月20日ー3月25日

–

ギャラリー南

|内容|

人と話をするとき，緊張した空間，広すぎる空間で話をするのは難しい。ギャラリースペース内にてんとうむしに見立てた赤いテントをはり，中に座布団などを持ち込んだ。テント虫は，温かく心地よい交流のスペースとしてコミュニケーションのきっかけとなる場所となることを目指した。実際に，来館者にはテント虫の中でいろいろな人と自由に交流してもらった。

|ツイート|

3月7日 京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB

【今日のてんとうむし】人と話をするとき，空間は大切です。緊張した空間，広すぎる空間で話をするのは難しい。でも，テントの中なら，テントを話題にしながら，コミュニケーションのためのテント虫です。

WORKSHOP
–
3月20日ー3月25日
–
ギャラリー南

|内容|

わいわいおしゃべりできる居心地の良い場所を作る。一言に「おしゃべり」とはいえ，話す内容を探すことは難しい。そこで，はんこ作りという手先の仕事に気を使いながら他愛のない話をしてもらった。うまい，ヘタは問題外。はんこを作りながら，楽しくおしゃべりしてもらうことができた。

|ツイート|

3月14日 @一般の方より

はんこ気になる(>_<)どんなの作るのかな？ 時間はいつ行けばいいのかな？？ RT “@KYOTOARTCLUB:【京都芸術倶楽部イベント紹介】[はんこでおしゃべり] うまい，ヘタは問題外，はんこをつくりながら，おしゃべりできたらそれでよし。

京都芸術センターの
アートコーディネーターの
過去・現在・未来

TALK
–
3月20日ー3月25日
–
ギャラリー南

|ゲスト| （肩書きは会期中のもの）
聞き手：奥脇嵩大（京都芸術センターアートコーディネーター），
山本恵子（京都芸術センターアートコーディネーター）

3月20日
山本恵子，川崎陽子（京都芸術センターアートコーディネーター）
青嶋絢（京都市立芸術大学国際交流室インターナショナル・コーディネーター），
福島尚子，清澤暁子
丸井重樹（KYOTO EXPERIMENT事務局），日和香（吹田メイシアター）

3月21日
奥脇嵩大（京都芸術センターアートコーディネーター），
藤田瑞穂（京都芸術センターアートコーディネーター）

3月22日
勝冶真美（京都芸術センターアートコーディネーター），
上村絵梨子（京都芸術センターアートコーディネーター〔平成24年4月から〕）
牧口千夏（京都国立近代美術館研究員），林朋子（大阪市立大学都市研究プラザ特任助教），萩原麗子（京都芸術センタープログラムディレクター）

3月23日
植田憲司（NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]学芸員），
山本麻友美（京都芸術センタープログラムディレクター）

3月24日
井原麗奈（神戸国際芸術祭実行委員会事務局長）

3月25日
松浦友（演出家／演劇ユニットYOU企画主宰）

3月26日
田嶋結菜（「地点」制作），小島寛大（ANJ）

京都芸術センターのアートコーディネーターの過去・現在・未来

TALK
–
3月20日–3月25日
–
ギャラリー南

|内容|
京都芸術センターの歴代から来年度にいたるまでのアートコーディネーターたちによるトークによって，芸術センターやボランティアスタッフの姿を浮かびあがらせる。アートコーディネーターになる前や卒業後の活動と在職中の対ボランティア，対作家との関わりについてトークしてもらった。芸術センターの歴史が垣間見え，好評のイベントだった。

|ツイート|
3月22日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
【てんとうむしLIVE】上村さんは4月からの新AC，ということで，芸術センターに来てみて如何だったのでしょう。最初はめまぐるしい忙しさにびっくり されたそうです。落ち着いておられるように見えていたので，これは意外な展開。色々な分野の事業を経験してみたい！との意気込みも聞きました。

3月22日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
【てんとうむしLIVE】勝冶さんの未来のお話。あと一年，芸術センターで行ってみたいことは何なのでしょう。わざゼミの方向性など色々なトピックが出ましたが，大事なのは，芸術センターと事業の2年後，3年後を見据えた仕事をすることなのでは？といった意見も出ました。

3月23日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
【てんとうむしライブ】「京都芸術センターのアートコーディネーターの過去・現在・未来 8」植田さんのボランティアさんとの思い出は，辞める時にボランティアさんからお菓子をいただいたこと，だそうです。ボランティアさんて，すごく見てくれ ていますよね。という，お話も出ました。

3月23日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB【てんとうむしLIVE】人が来る施設とは何か。京都芸術センターと京都国際マンガミュージアムだったら，あきらかにマンガミュージアムのほうが多い。ICCもそんなに人の来る美術館ではない，とのこと。東京でも，京都でもやはり悩みは似ているようです。

3月25日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
【てんとうむしLIVE】松浦さんがおられた頃には，当時高校生だったボランティアさんの発案でできた，ボランティアさんが主体となって作る通信誌があったそうです。その中で色々な文章を書いたりして，ボランティアさんとの交流もあったそう。

|企画| 吉田季平（京都芸術センターボランティアスタッフ）

everyday PARTY

PARTY
–
3月20日ー3月25日
–
ギャラリー南

|内容|

毎日食べ物を囲いパーティを行った。誰かと初めて話す時，食べ物や飲み物はその緊張の間に上手に入ってくれる。友達になることではなく，顔見知りになること，それぐらいからはじめるパーティ。

3月20日
オープニングパーティ：京都でのおもてなし

3月21日
懐かしいお菓子

3月22日
アートないっぷく

3月23日
いろいろなたこ焼き×（BGM）ハワイアン

3月24日
とってもいいお菓子と甘酒×（BGM）琴ポップス

3月25日
クロージングパーティ：東北もん

|ツイート|

3月21日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
【今日のてんとうむし】お昼の時間帯には，[EVERYDAY PARTY]を開催いたしました。今日のメニューは，懐かしい駄菓子などを用意いたしました。3歳のお子さんから80代の方まで，駄菓子を囲んでいろいろなお話をしました。

画廊めぐりと小吹さん

PARTY
–
3月23日, 3月24日
–
京都市内

|内容|

関西を拠点に活動するライター小吹隆文さんと半日一緒に，日頃小吹さんがこまめにチェックしている画廊を巡った。

3月23日
コース：寺町三条〜可原町周辺
行き先：ギャラリーヒルゲート　(寺町通三条上ル西側)
同時代ギャラリー　（三条通御幸町南東角）
ギャラリー・パルク　（三条通御幸町北西角）
ギャラリーマロニエ　（四条河原町上ル東側）
ギャラリーにしかわ（四条河原町上ル東側）

3月24日
コース：蹴上 — 東大路三条周辺
行き先：ギャラリーすずき　（蹴上）
アートスペース虹　（蹴上）
ギャラリーモーニング　（三条通岡崎通角）
アートスペース東山　（三条通神宮道東入ル）
ギャラリーはねうさぎ　（三条通神宮道東入ル）
ギャラリー16　（三条通白川橋西入ル上ル）

|ツイート|

3月24日小吹隆文　@kobukitakafumi
今日は画廊ツアーという珍しい仕事をした。京都芸術センターのイベントで，同センターのボランティアスタッフ有志＆一般公募の方約10名を引率し，京都・寺町三条から四条河原町開催の画廊を回るというもの。画廊慣れしていない方々の反応は新鮮で，私にとっても良い気分転換になった。

3月24日小吹隆文　@kobukitakafumi
昨日に引き続き，京都芸術センターのイベントで画廊ツアーを実施。エリアは蹴上から神宮道周辺で，6画廊を回った。このイベントを機に，参加者が気兼ねなく画廊に行くようになってくれたら嬉しい。私自身にも新鮮なイベントで，チャンスを与えてくれた京都芸術センターに感謝。

3月23日|金|

集合 || 本能寺前 | 13:00 *2時間程度を予定
講師 || 小吹隆文 | 美術ライター |
コース || 寺町三条ー河原町周辺

ギャラリー ヒルゲート	寺町通三条上ル西側
同時代ギャラリー	三条通御幸町南東角
ギャラリー・パルク	三条通御幸町北西角
ギャラリー マロニエ	四条河原町上ル東側
ギャラリー にしかわ	四条河原町上ル東側

3月24日|土|

集合 || 地下鉄東西線「蹴上」出口(浄水場方面出口) |
13:00 *2時間程度を予定
講師 || 小吹隆文 | 美術ライター |
コース || 蹴上ー東大路三条周辺

ギャラリー すずき	蹴上
アートスペース虹	蹴上
ギャラリー モーニング	三条通岡崎通角
アートスペース東山	三条通神宮道東入ル
ギャラリー はねうさぎ	三条通神宮道東入ル
ギャラリー 16	三条通白川橋西入ル上ル

京都芸術倶楽部について

鑑賞者，そしてアートの現場を支える京都芸術センターのボランティアスタッフ，彼らと共に考え，はじめること。てんとうむしプロジェクト03では，コンセプトメイキングに藤本由紀夫を迎え，「京都芸術倶楽部」を結成します。6日間だけ存在する京都芸術倶楽部でどのようにスペースを作り，何をするのか，すべてボランティアスタッフが考えます。考えること，そして始めることをみせる6日間の実験がはじまります。

主催　京都芸術センター
助成　財団法人地域創造
京都芸術倶楽部代表　早川七月(京都芸術センターボランティアスタッフ)
デザイン　見増勇介(ボランティア)，大西正一(ボランティア)
コンセプトメイキング　藤本由紀夫(ボランティア)
企画・運営　京都芸術倶楽部(京都芸術センターボランティアスタッフ有志)

問い合わせ先
〒604-8156
京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2
TEL 075-213-1000　FAX 075-213-1004
E-mail　info@kac.or.jp
Web　www.kac.or.jp

KOBUKI

Gallery Tour

2012

3/23　3/24

画廊めぐりと小吹さん

画廊に行ったことがありますか？ガラス越しに見るだけで通り過ぎていませんか？入りたいけど入りにくい，そんな画廊もみんなで入ればコワくない。今回は，関西を拠点に活動するライター小吹隆文さんをお迎えし，京都の画廊，ギャラリーなどアートスペースを巡ります。美術に造詣の深い人も，全くはじめてという人も，春の訪れを感じながら，半日，一緒に画廊巡りをしてみましょう。

てんとうむしプロジェクト03 京都芸術倶楽部
TENTOUMUSHI Project 03 KYOTO ART CLUB

京都芸術倶楽部
KYOTO ART CLUB

小吹さんの画廊巡り指南

画廊に出かける際の心得

・まずは思い切って出かける。たかが美術作品なので，怖がる必要なし。
・自分の気持ちに正直に観賞する。知ったかぶりをしない。(「もし自分が作品を買うなら」と仮定して観賞するのも一つの方法。)
・勇気を出して，作家や画廊の人と話しをしてみる。
・芳名帳にサインをする。住所を記しておけば，次回にDMを送ってもらえるかも。
・作品が気に入らなければ(あるいはピンと来なければ)長居する必要なし。
・無礼な扱いや押し売りをされそうになったら，すぐ退散。そこには二度と行かない。(このようなことはまず無い。)
・最初はとにかく沢山の展覧会，画廊に出かける。やがて自分の好みがわかる。
・気に入った画廊が見つかったら，何度も通う。そこから更に新たな関係が生まれる。
・自分好みの作品，作家，画廊を見つけ，通い慣れたら，作品を買ってみる。(アート上級者への入口。)

画廊(主に現代美術を扱う画廊)の基礎知識

・画廊には大きく分けて2つの種類がある。
企画展専門画廊
＝展覧会を自主企画し，作家を売り出して，主に作品の収益を生業とする。
＝展覧会の会期が長い。2週間ー2カ月ぐらい。

貸し画廊
＝展示室を週単位で作家に貸して，主に場所台を生業とする。
＝ただし，貸しと企画展を併用している所も多い。
＝展覧会の会期が短い。1週間単位。

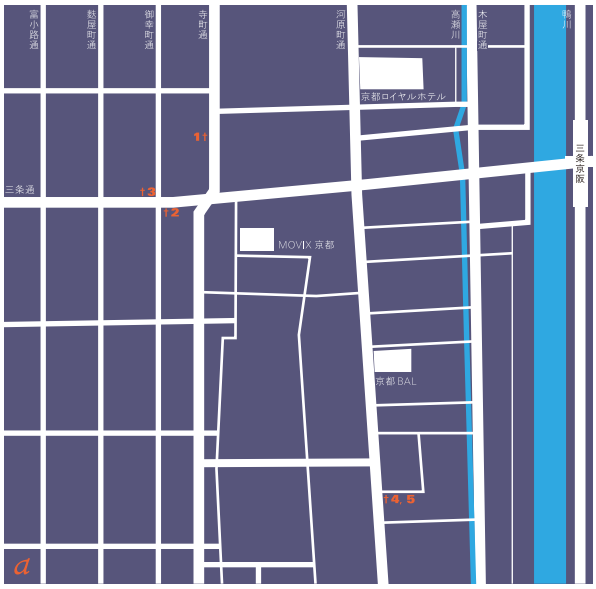
・画廊にはもう一つの分類もある。
プライマリー
＝自分たちで作家をプロモーションして主に新作を販売する。
セカンダリー
＝オークションや何らかの事情で入手した有名作家の作品を転売する。

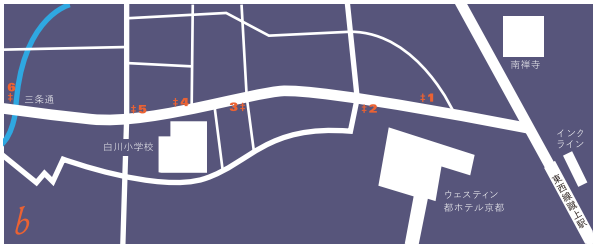
a
- ‡1　ギャラリー ヒルゲート
- ‡2　同時代ギャラリー
- ‡3　ギャラリー パルク
- ‡4　ギャラリー マロニエ
- ‡5　ギャラリー にしかわ

b
- ‡1　ギャラリー すずき
- ‡2　アートスペース虹
- ‡3　ギャラリー モーニング
- ‡4　アートスペース東山
- ‡5　ギャラリー はねうさぎ
- ‡6　ギャラリー 16

画廊めぐりと小吹さん

・京都の現代美術画廊の傾向
京都の現代美術はマーケットがない状態が続いたので，貸し画廊が主だった。
貸し画廊が増えたのは1980年代以降。最も古いギャラリー16が1962年創業。
21世紀以降，企画展専門の画廊が徐々に増え始めた。今は両方が混在。
作品を鑑賞する上で，必ずしも企画か貸しかを意識する必要はない。





手芸あそび

WORKSHOP
–
3月21日, 3月23日
–
ギャラリー南

|講師|
西野文子（京都芸術センターボランティアスタッフ）

|内容|
家のなかにある，ネクタイや小さな布きれ，身に着けることのなくなった古い洋服たち。それらに新たな役割を与え，さらに楽しむことのできる手芸あそびを行った。本気で手芸をするのではなく楽しく，おしゃべりをしながら手先を動かすことが目的。参加者には心地よくゆるやかな時間を過ごしてもらえることができた。

|ツイート|
3月21日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
【今日のてんとうむし】手芸あそびも終わると，素敵なお話タイムです。まったく知らない人同士が，祇園祭の話でもりあがります。手芸あそびの西野さんは，旦那様が祇園祭できる浴衣を縫われていたそうです。お裁縫ができないと，鉾町ではお嫁にいけない…とのこと。

3月23日　@一般の方より
今日は10時から行われる手芸のワークショップに行ってきました。 予想通り男性は私一人…教え辛い参加者だったかも…初めての手芸… 記念に大切にしまっておきます。

福のり子さん　と アート鑑賞を語る

TALK
–
3月20日
–
ギャラリー南

|ゲスト|
福のり子（京都造形芸術大学教授）
聞き手：藤井幹明（京都芸術センターボランティアスタッフ）

|内容|
鑑賞教育のプログラムに取り組む福のり子氏と企画者であるボランティアスタッフとのアート鑑賞を巡るトークイベントを行った。アートとは，そしてアート鑑賞とは。熱いトークとなった。

|ツイート|
3月20日 京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
アートの鑑賞とは，相互の関係が大切。絵画であっても，彫刻であってもそれはインタラクティブなもの。作品を見て，何かを感じて，鑑賞者自身がクリエイティブになること。

歷代てんとうむしプロジェクトのみなさんの話を聞いてみた

TALK
–
3月20日
–
ギャラリー南

|ゲスト|

安河内宏法（京都市美術館学芸員），清澤暁子

山本恵子（京都芸術センターアートコーディネーター）

聞き手：早川七月（京都芸術センターボランティアスタッフ）

|内容|

全国でもとても珍しい，ボランティアと共に展覧会を企画運営する『てんとうむしプロジェクト』を立ち上げ，継続してきた担当者の方々の視点からみた「ボランティア」とは，ということについて話をしてもらった。文化施設にボランティアのシステムがあることのメリット・デメリット，アートの現場でのボランティアとは，ボランティアに対価があるとすればそれは何か，といった内容になった。

|ツイート|

3月20日 京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB

続き…歴代のてんとうむしプロジェクト担当者。どのようにボランティアさんと何を考え，プロジェクトを進めたのか。それぞれの企画の根幹はどこにつながっているのでしょう。てんとうむしプロジェクトって何と思われている方必見です。

五代目坂東玉三郎の舞踊について

TALK
–
3月21日
–
ギャラリー南

|ゲスト|

倉本直治（京都芸術センターボランティアスタッフ）

|内容|

倉本さんによる，五代目坂東玉三郎の舞踊についてのトーク。『坂東玉三郎舞踊集』から《春興鏡獅子》と《藤娘》を鑑賞。さらに，玉三郎がその目標とした故・六代目中村歌右衛門の《鐘の岬》と比較鑑賞した。幅広い世代の方が参加してくださり，美しい舞の映像と，倉本さんの詳しいお話で五代目坂東玉三郎をより知ることのできる機会となった。

|ツイート|

3月21日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB

【てんとうむしLIVE】坂東玉三郎の藤娘の映像を見ながら，倉本さんの解説が入ります。裾の見せ方，扇子の取り方と玉三郎の美しさが光ります。解説も非常に詳しく，お客様も聞き入っておられます。

3月21日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB

【てんとうむしLIVE】非常にたくさんの方がご来場になられています。若い方も見にこられています。坂東玉三郎の人気なのか，倉本さんの人気なのか…おそらく両方ですね。

てんとうむしプロジェクト03

京都芸術倶楽部
KYOTO ART CLUB

五代目 坂東玉三郎の舞踊について

●『歌舞伎』とは、三味線を主奏に和楽器を伴奏に、台詞も写実では無く、歌うように、動きも舞踊を素地とし、その演技もそれらの旋律に添って動く演劇。

●『舞踊』の『舞』はバレエなどのように足の跳躍を伴わない、つまりは摺足の身体移動。

しかし、能や京舞の演目の中には激しい跳躍を伴う舞もある。踊りとは、足の跳躍を伴う身体移動で、歌舞伎の舞踊は『舞』と『踊』を合わせ持つ演目。

★写実をめざし近代劇を志向した小山内薫は「歌わずに語れ、舞わずに動け、踊らずに表現しろ」と指導したと言う。

●五代目坂東玉三郎の出自

14代目　守田勘弥(昭和50年3月28日没68歳)→◎養子　5代目坂東玉三郎　昭和25年4月25日生(61歳)

└──────── 2代目　水谷八重子(新派俳優)

初代　水谷　八重子(新派　俳優)

●『シネマ歌舞伎』現尾上菊之助との【二人道成寺】現海老蔵との【天守物語】泉鏡花原作

●『坂東玉三郎舞踊集』(≒平成2年、出版)

・夕霧☆鐘の岬・楊貴妃・由縁の月★葵の上○藤娘★こすの戸☆鏡獅子★雁金★黒髪

・保名★稲舟★山姥・日本振袖始・高尾○鷺娘☆お夏狂乱☆京鹿子娘道成寺 18曲

☆は六世中村歌右衛門。★は武原はん。○は六代目尾上菊五郎を手本に？ 現玉三郎の新作振付は、梅津貴旭

●現片岡仁左衛門との名舞台

(長唄の名曲)二人椀久(清元の名曲)色彩間苅豆　いろもよう　ちょっと　かりまめ・旅路の花婿・

(常盤津の名曲)積恋雪席扉　つもるこひ　ゆきのせきのと・忍夜恋曲者　しのびよる　こひはくせもの　など

●荻江寿友との「高尾」「深川百景」「水仙丹前」など見たいモノがあったが、寿友師は平成23年1月死去

●歌舞伎の本舞台では、戦後、間もなく三島由紀夫の戯曲「椿説弓張月」で松本白鸚主演の舞台で、三島の絶賛を得、以後、彼の推挽もあって次第に大役を…現仁左衛門(当時孝夫)との《孝玉》時代、四世の鶴屋南北の【桜姫東文章】【お染の七役】などで人気を博し、【助六由縁江戸桜】の揚巻など、女形の大役の殆どを演じて来た。

●一方、新派の遺産、曾て喜多村緑郎や花柳章太郎などが演じた泉鏡花原作の【日本橋】のお孝【滝の白糸】なども仕果せ、翻訳劇でもポーランドの劇作・演出家アンジェイ・ワイダ演出の【ナターシャ】三島由紀夫の【サド侯爵夫人】中國の名花旦、梅蘭芳の息、葆葩パオジユウの指導も受け、蘭芳の得意とした【貴妃酔酒】(南座でも上演)。また、映画の製作・演出でも【夢の女】(永井荷風原作)(南座でも上演)鏡花原作の【外科室】【天守物語】【夜叉ヶ池】なども手掛け、先頃は打楽器集団『鼓童』とのコラボの演出・主演【アマテラス】にも(NHKでオンエア)

●現玉三郎は、幼くして花柳界に育ち、幼児期から踊りの稽古を躾けられ【藤娘】の舞台写真も残っており、青年期に六世中村歌右衛門の【籠釣瓶花街酔醒】の序幕、八ッ橋の婉然たる「笑み」や大切りの殺しの場での八ッ橋の恍惚とさせる程の姿態を見て『歌舞伎の女形』を志したと言う。

しかし、玉三郎の芸風は、歌右衛門の濃厚な歌舞伎の味わいとは、一味違って、白磁のような透明感が彼の芸風かと思われ、その代表作が長唄の【鷺娘】ではなかろうか。

【鷺娘】の現行の振付・演出は大正・昭和の名人、初代中村吉衛門と並び称された六代目尾上菊五郎と言われており、ロシアバレエの【瀕死の白鳥】を見て感動した音羽屋が現行の【鷺娘】に仕立て、以後歌舞伎の舞台ではそのカタを踏襲して現在に至ると言う。

現玉三郎の【藤娘】【鏡獅子】【鷺娘】のビデオを見て頂きながら所々、解説します。

館長と ボランティアと アートと 民主主義を 語る

TALK
–
3月21日
–
ギャラリー南

|ゲスト|
富永茂樹（京都芸術センター館長），由里啓子（京都芸術センター事務局長）
聞き手：藤井幹明（京都芸術センターボランティアスタッフ）

|内容|
センターの使命・ボランティアの役割等についての考えや期待すること，さらには，館長の研究対象であるトクヴィルやリスボンの大地震についてのトーク。それらから見えるボランティアの姿についての話もしてもらった。

|ツイート|
3月21日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
【てんとうむしLIVE】地震とボランティア。ボランティアということの意味を考えてみると，最初の出発点は非常に政治的であり，リスボン地震とともにボランティアを考えることもできる。

3月21日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
【てんとうむしLIVE】今度は，事務局長の由里啓子さんによるトークです。てんとうむしのスカーフをつけて登場です。

|企画| 藤井幹明（京都芸術センターボランティアスタッフ）

創生座 勉強会

TALK
–
3月21日
–
ギャラリー南

|ゲスト|
進行：濱崎ナツコ（京都創生座サポートスタッフ）
谷由利子（京都芸術センターボランティアスタッフ，京都創生座サポートスタッフ）
平野徹（京都芸術センターボランティアスタッフ，京都創生座サポートスタッフ）

|内容|
五感で感じる和の文化伝統芸能事始め講座のメインテーマ“松と桜”に呼応して古典芸能の勉強会。年度最後の今回は“桜”として能楽「西行桜」について。謡曲集「西行桜」，概要説明，一部素謡，画像紹介，西行紹介を行った。ギャラリーに響く素謡はなかなか不思議なものとなり，参加者は真剣に聞き入っていた。

|ツイート|
3月22日　@一般の方より
こういう感じ。いいね☆とか RT @KYOTOARTCLUB:【てんとうむしLIVE】ただいま，京都創生座サポートスタッフによる勉強会を開催中。テーマは能楽「西行桜」です。ボランティアの平野さんによる素謡が披露されています。

|企画| 濱崎ナツコ，谷由利子，平野徹（京都芸術センターボランティアスタッフ）

アートセンターファンと語る

TALK
–
3月22日
–
ギャラリー南

|ゲスト|
加山さん（匿名）
聞き手：藤井幹明（京都芸術センターボランティアスタッフ）

|内容|
アートファンの一人であり，京都芸術センターのイベントにもよく参加している加山雄二郎さんや来場者とアーティストやセンターの使命について考え，また期待するところを語り合った。なぜ加山さんがアートファンとして今に至ったのかという話から来場者とアーティストやセンターの使命について考える，刺激的な時間となった。

|ツイート|
3月22日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
【てんとうむしLIVE】加山さんはアーティストになってほしいとたくさんのご意見。意見をしたい，表現したい。それは，アーティストの基本であると会場から拍手が起こる。

|企画| 藤井幹明（京都芸術センターボランティアスタッフ）

アートないっぷく

PARTY
–
3月22日
–
ギャラリー南

|内容|
京都芸術センターには，ボランティアスタッフと友の会会員によるお茶の会がある。その名も「茶の湯体験サロンいっぷく」。毎週火曜日にお稽古をする「いっぷくさん」によるアートなお茶会。普段は美術作品の展示されているギャラリーで，抹茶とこの日のためだけの特別なお菓子を用意して，いつもと違う，アートないっぷくを行った。

|ツイート|
3月22日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
【今日のてんとうむし】アートないっぷくは大盛況でした。素敵なお菓子に，素敵なお茶碗。そして，おいしいお茶。

|企画| 藤井幹明（京都芸術センターボランティアスタッフ）

KACボランティア
大いに語る

TALK
–
3月22日
–
ギャラリー南

|ゲスト|
京都芸術センターボランティアスタッフ
聞き手：山本恵子（京都芸術センターアートコーディネーター）

|内容|
京都芸術センターの本当に良いところをさがすために芸術センターに言いたいこと，聞いてみたいこと，してみたいことをボランティアさんに語ってもらった。普段，アートコーディネーターとボランティアスタッフが芸術センターについて話し合う機会が少ないが，この日はアートコーディネーターの任期や，芸術センターと指定管理について等，色々なトピックについて話し合いが行われた。

|ツイート|
3月22日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
【てんとうむしLIVE】京都芸術センターの展覧会事業の話へと広がります。分かりやすくて楽しい企画が良いのか？先鋭的で難解な企画が良いのか？あるいは両方でバランスをとることが必要なのではないか？活発な意見が飛び交います。

KACで
KACと
KACを語る

TALK
–
3月22日
–
ギャラリー南

|ゲスト|
藤森哲朗（京都アートカウンシル代表）
聞き手：藤井幹明（京都芸術センターボランティアスタッフ）

|内容|
３つのKAC京都芸術倶楽部，京都芸術センター，京都アートカウンシルによるトークイベントにおけるアート事情の今，そして近未来について語った。ＮＰＯ「アートカウンシル」の方から活動の様子や理念を知り，ボランティアがセンターで出来る可能性を探った。

|ツイート|
3月22日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
【註】KYOTO ART FAIRの構想を引き継ぎ発足。「ひと」「アート」「京都」がキーワード。気品と誇りある町衆 =「ひと」，崇高な感性・熟達 =「アート」，活気（ライブ感）ある町 =「京都」を基本理念として活動。アートで京都を活性化することを目的としています。

|企画| 藤井幹明（京都芸術センターボランティアスタッフ）

次長“嶋”の
アート出張報告

TALK
–
3月23日
–
ギャラリー南

|ゲスト|
嶋佳子（京都芸術センター事務局次長），萩原麗子
聞き手：藤井幹明（京都芸術センターボランティアスタッフ）

|内容|
京都芸術センター事務局次長とプログラムディレクター萩原麗子氏により，出張で得たアメリカのアート事情について話をしてもらった。タンパ（フロリダ）のオレンジの紅茶を用意し，嶋次長はてんとうむしのカチューシャをつけて参加してくださった。

|ツイート|
3月23日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
【てんとうむしLIVE】タンパでの国際会議での自己紹介を紹介。なんとリズムに乗りながら，歌うように，叫ぶようにMy name is…を全員で言うと，アジア人として恥じないように，弾けましたとのこと。

|企画| 藤井幹明（京都芸術センターボランティアスタッフ）

平成23年度第5回
京都芸術センター運営委員会
公開会議

TALK
–
3月24日
–
ギャラリー南

|内容|
運営委員会が会議室を飛び出し，開館以来初のギャラリー南での公開会議を行った。一般の来場者にセンターの方針を決める大切な会議に立ち会ってもらう貴重な機会となった。

|ツイート|
3月24日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
【今日のイベント】TALK　※緊急企画「 平成23年度第5回運営委員会」はじまっています！

映画について

TALK
–
3月24日
–
ギャラリー南

|ゲスト|
谷口正樹（京都シネマ）
聞き手：原井三千子（京都芸術センターボランティアスタッフ）

|内容|
映画におけるフィルムからデジタルへの移行，映画の楽しみ方，京都シネマについてなど映画に関する話をしてもらった。京都シネマ上映予定の映画の予告を見たり，参加者からさまざまな質問が飛び交う充実したイベントとなった。

|ツイート|
3月24日　@一般の方より
今日は京都芸術センターで京都シネマの方のお話が聞けた。小さいがこだわりのある映画館は世界的に金銭面においてカツカツみたい。だからそういう映画館が好きな人は是非ともどんどん足を運んで欲しいって言ってました(切実)

ミニチュアの世界

TALK
–
3月25日
–
ギャラリー南

|ゲスト|
倉本直治

|内容|
『祇園祭』のビデオを見てもらい祇園囃子も聞いてもらいながら，祇園祭の山鉾の懸装品などのトークを行った。12ヶ月の季節の移り変わりをモチーフに作られた京都の町並みのミニュチュアや展示物も紹介。

|ツイート|
3月25日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
【てんとうむしLIVE】「ミニチュアの世界」が始まりました。まずは祇園祭の山鉾の模型についてのトークがされています。それぞれの鉾の由来を織り交ぜた説明は分かりやすく，興味深いものです。

てんとうむしプロジェクト03

京都芸術倶楽部
KYOTO ART CLUB

ミニチュアの世界

●定年後の再就職先も退職し、さてこれから何をしようかなと模索している頃、丁度、或るコンペを知って、急きょ、1ヵ月程で祇園際の山鉾、現存の32基を作った。

元の住まいが「ギオンさん」の後の祭の区域にあって、祇園際には愛着があったから。

かつて、大阪芸大の先生と京都工繊の学生が見事の実測図を作成出版されたのを思いだし、それを基に成るべく忠実に作った。1/100の縮尺

祇園祭は貞観十一(869)年、この少し前には、今度の東北の地震・津波より大きな災害もあり、また、疫病の流行を払うために創まったと言う。

『祇園祭』のビデオを見てもらい祇園囃子も聞いてもらいながら、一つ一つ山鉾の懸装品などのお話も。

●次は『京町屋』。祇園祭の山鉾を作った後、京都生まれのわたしは、その頃からドンドン京都の美しい町屋が壊されて行くのを見て、これも、ミニチュアにして置こうと思い起ち、例えば睦月、一月は門松に「日の丸」を掲げ、屋根の霙も解けかかるスッポン料理の【大市】さん。弥生三月は、つなぎ団子の紅提灯に柳・桜を扱き混ぜた【祇園新橋】の吉井勇の「かにかくに」の碑。文月七月は祇園祭宵山の飾りも床しい新町の「吉田」さん。師走十二月は「招き看板」の揚がった顔見世の「南座」とか。十二月の25点。

これは、菓子箱などのフレームにこれも1/100。フレームの上をカットしカラーセロファンを貼り、上からライトを当て、見て頂く。如意が嶽に送り火が点る。

二月如月は玄関の大瓶に紅椿と白梅を生ける懐石料理の【瓢亭】五月皐月は鯉幟と軒菖蒲の【宮脇売扇菴】

六月水無月は早咲の朝顔と氷幟の仏教書店【其中堂】九月長月は月見団子に薄を供えるお茶の【一保堂】

十月神無月は愛宕さんの鳥居に紅葉も映える鮎料理の【平野屋】十一月霜月は冬支度の街路樹と赤ポストの御装束師【黒田家】

別の一月は枯枝に紙鳶も遠く、鰻雑炊の【わらじや】二月如月は囲炉裏前の餅花も暖かな【河井寛次郎記念館】

五月皐月は、ガラス窓に映る新緑も涼しい喫茶の【進々堂】十月神無月は、外人もオーッ、ワンダフル小道具屋の【鈴木】

十一月霜月は柳一葉の散り残る元揚屋の【角屋】十二月師走は積もる雪に店明りの洩れる新杉玉の【大倉酒造記念館】　など25点

●最後は『舞台装置』。

歌舞伎

【天衣紛上野初花】くもにまごううえののはつはな　河竹黙阿弥作

入谷大口屋寮の場直侍と桜蘭三千歳の色模様の場面

【籠釣瓶花街酔醒】かごつるべさとのえひざめ　河竹新七作

新吉原中之町の湯　初代吉衛門と六世歌右衛門で昭和の名舞台

【返々余波大津絵】かへすがへすなごりのおおつえ　小村雪岱画伯の名作舞台　六代目尾上菊五郎の名作

【新版歌祭文】しんぱんうたざいもん　近松半二作　野崎村の段　廻り舞台

【妹背山婦女庭訓】いもせやまおんなていきん　近松半二作　山の段

【義経千本桜】三好松洛作　河連法眼館の段　通称　四の切　猿之助の宙乗りで人気

新派

【婦系図】湯島天神境内の湯　喜多村緑郎や花柳章太郎で有名　伊藤熹朔装置

新劇

【かもめ】アントン・チェホフ作　自作の装置

【三人姉妹】アントン・チェホフ作　伊藤熹朔装置

【夜明け前】島崎藤村原作　村山友義脚色演出　滝沢修の名舞台　伊藤熹朔装置

現代演劇

【にごりえ】樋口一葉原作　蜷川幸雄演出　朝倉摂装置

【王女メディア】エウリピデス作　蜷川幸雄構成演出　朝倉摂装置　以上12点

ボランティアさん
に話を聞いてみた

TALK
–
3月25日
–
ギャラリー南

|ゲスト|
若手ボランティアスタッフ
ベテランボランティアスタッフ
聞き手：早川七月(京都芸術センターボランティアスタッフ)

|内容|
ボランティアスタッフからボランティア活動に至った経緯や，また経験したこと，ボランティア活動の対価とは何かということについて聞いた。なぜこのトークに参加している方は京都芸術センターでボランティアを行っているのか，続けていくためにはどのようにしてモチベーションを保っているのか，いろいろなトピックが出たトークになった。

|ツイート|
3月25日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
【てんとうむしLIVE】せっかくの「ボランティア」，楽しんで自分のペースで行っていきたい，という意見がありました。

謹啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度，京都芸術センターでは，てんとうむしプロジェクト03「京都芸術倶楽部」を開催いたします。

「京都芸術倶楽部」は，鑑賞者そしてアートの現場を支える京都芸術センターのボランティアスタッフと共に考え，はじめることを見せる6日間です。今回は，コンセプトメイキングに藤本由紀夫を迎え，ボランティアスタッフが企画した様々なイベントやワークショップ，展覧会を開催します。

つきましては，本展の開催にあたり，オープニングパーティを行いますので，ご多忙中とは存じますが，是非ご来場賜りたくご案内申し上げます。

謹白

2012年3月

京都芸術センター

ハンドで おしゃべり

everyday PARTY

画廊と小吹さんめぐり

てんとうむしのおとしもの

手芸あそび

次長“嶋”の アート出張報告

館長と ボランティアと アートと 民主主義を 語る

毛筆 brush&ink 日本文化を楽しむ

世界 ミニチュアの

ボランティアさん に話を聞いてみた

福のり子さん と アート鑑賞を語る

五代目 坂東玉三郎の 舞踊について

映画 について

テント虫

アートやソフトウェアと語る

生座 創勉強会

京都芸術センターの アートコーディネーターの 過去・現在・未来

KACボランティアと 大いに語る

KACで KACと KACを語る

アートな いっぷく

歴代てんとうむしプロジェクトのみなさんの話を聞いてみた

京都芸術倶楽部
KYOTO ART CLUB

会期	2012年3月20日[火・祝]−3月25日[日] 10:00−20:00 *会期中無休
場所	京都芸術センター ギャラリー北・南，他
料金	無料 *会期中，多数のイベントを企画しております。 つきましては同封のチラシをご参照ください。
主催	京都芸術センター
助成	財団法人地域創造

コンセプトメイキング	藤本由紀夫(ボランティア)
企画・運営	京都芸術倶楽部 (京都芸術センターボランティアスタッフ有志)
京都芸術倶楽部代表	早川七月(京都芸術センターボランティアスタッフ)
デザイン	見増勇介(ボランティア)，大西正一(ボランティア)
問い合わせ先	〒604 8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2 TEL 075 213 1000　FAX 075 213 1004 E-mail　info@kac.or.jp Web　www.kac.or.jp

KYOTO ART CENTER

てんとうむしプロジェクト03

京都芸術倶楽部

EVERYDAY PARTY INVITATION

TENTOUMUSHI Project 03

KYOTO ART CLUB

EVERYDAY PARTY INVITATION

京都芸術倶楽部
KYOTO ART CLUB

2012.3.20 tue 19:00

KYOTO ART CLUB

INVITATION

てんとうむしプロジェクト03
京都芸術倶楽部
EVERYDAY PARTY

日時　2012.3.20 tue 19:00

会場　ギャラリー南

*当日ドアパネル会場受付にて本状の封筒をお渡しください。

*当館には、駐車場がございませんので、お越しの際は公共交通機関をご利用ください。

GALLERY SOUTH

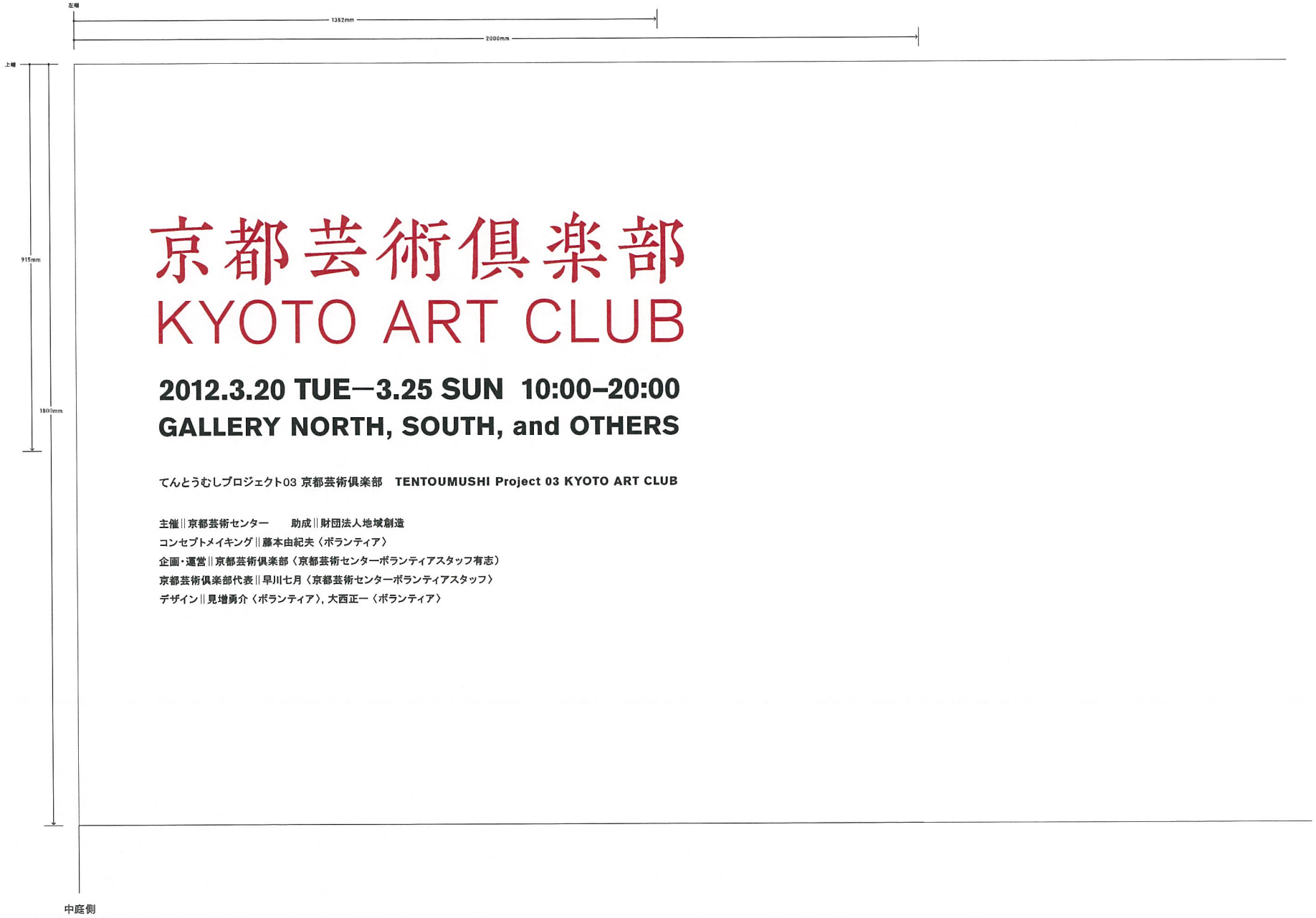
TENTOUMUSHI Project 03
KYOTO ART CLUB
EVERYDAY PARTY

京都芸術倶楽部
KYOTO ART CLUB

京都芸術倶楽部
KYOTO ART CLUB
2012.3.20 Tue–3.25 Sun KYOTO ART CENTER

京都芸術倶楽部
KYOTO ART CLUB
2012.3.20 Tue–3.25 Sun
KYOTO ART CENTER

● 展覧タイトル表示案［ギャラリー南左横／白壁／カッティング文字］ scale 1/10



京都芸術倶楽部
twitter
–
249ツイート /
1980フォロー /
704フォロワー
（2012年5月29日調べ）

「京都芸術倶楽部」のツイッターアカウント。そこでは，会期前から会期終了まで，来館者の方，興味を持ってくださった方，ゲストの方など様々な方とのやりとりがなされました。今もその軌跡がツイッター上には残っています。その中から，一部抜粋します。

3月6日 京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
6日間だけ存在する京都芸術倶楽部でどのようにスペースを作り，何をするのか，すべてボランティアスタッフが考えます。 今回，ボランティアスタッフに新しく蒔かれた種は，ゼロから何かをつくるということであり，それはアーティストが作品をつくるということと同じこと。 #KAC
1リツイート

3月7日 @一般の方より
ビールをのみながら，京都芸術倶楽部のポスターを発見！なんだか，ロゴが一杯。ワクワクするデザイン。でも，デザイナーのところにボランティアの文字が，まさかね。
京都芸術倶楽部さんがリツイート
1リツイート
1お気に入り

3月14日 京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
@(一般の方へ)「はんこでおしゃべり」は，ギャラリー南にて朝10時から行います。ほかのイベントも同時開催している場合がありますが，いつでも消しゴムハンコ，イモ版などが楽しめます。講師は特にいないので，自由に材料と道具を使って作ります。おしゃべりしながら，どうぞ。 KAC

3月14日 @一般の方より
@KYOTOARTCLUB なるほど，ありがとうございます！イモ版…！きっと遊びに行きます☆　1リツイート　1お気に入り

3月22日　@一般の方より
やってることというか，場所が素晴らしいんだよなぁ京都芸術センター。実際，何しに行ったかまったく憶えてない。憶えてるのは風が通る場所だったなーとか。廃校になった小学校かなにかで。教室を使った喫茶店とかあって。だれか連れていきたいな。

3月22日　@一般の方より
今日のお昼時間に友人が京都芸術センターへ散歩。「ん～，おとしものみつからな～い」ってメールが来たよ。あれ？　1お気に入り　2お気に入り

3月24日　@一般の方より
今日は京都芸術センターで京都シネマの方のお話が聞けた。小さいがこだわりのある映画館は世界的に金銭面においてカツカツみたい。だからそういう映画館が好き

京都芸術倶楽部
twitter
–
249ツイート /
1980フォロー /
704フォロワー
（2012年5月29日調べ）

な人は是非ともどんどん足を運んで欲しいって言ってました(切実)
３リツイート　１お気に入り

3月25日京都芸術倶楽部　@KYOTOARTCLUB
【てんとうむしのご報告】今年の「京都芸術倶楽部」は，好評の内に終了しました。ご参加いただいた皆様，ありがとうございました。今年のてんとうむしプロ ジェクトは終了しても，「京都芸術倶楽部」自体は来年も続きます。新しい予定が決まり次第報告します。今後ともよろしくお願いします！#KAC

アンケート

会期終了後「京都芸術倶楽部」についてボランティアスタッフの方々にアンケートをとりました。ボランティアスタッフの皆さんの声を一部公開します。

Q:「京都芸術倶楽部」について、どう思いますか?

A:ボランティアの人たちが、自主的に(サポートしてもらったとはいえ)何かを企画、進行をした事は、意義があったと思います。

A:皆々様、事務所、作家さん、ボランティアの皆様が早くからお話し会をして「京都芸術倶楽部」を練り上げられました事に感謝いたします。今後もこの企画が続けられますことを願っています。

A:参加したボランティアスタッフにとって、芸術センターやそれを取りまく環境への理解、また、"ボランティア"ということを考えるとてもよいキッカケになったと思う。ボランティア活動に参加し、リアルタイムで活動やボランティア、そしてボランティアとして自身に出来ることを考えさせてくれるプロジェクトだった。なかなか他にはない貴重な体験だったと思う。

A:ボランティアが能動的にうごくことができる良い機会になったと思います。芸術センターのように地域と芸術を繋ぐ箱にはボランティアさんが必要だと思うので、ボランティアさんがまず積極的に芸術と関わることによって、地域ともより深くつながることができると思います。今後もボランティアさんたちのモチベーションを上げるきっかけ、地域と芸術を繋ぐ橋渡しとして活動していってほしいです。

A:「自主性」というテーマは今まで考えずにいたことを考え、行動し、多くのコミュニケーションを生むので、とても素晴らしいと思います。今後も、"やってみよう"というチャレンジをこめて色んな事ができたら嬉しいです。アートと人、人と人…全てコミュニケーションだと思うし、その中には必ず何かが生まれると思います。多くの人が芸術センターに集まることで、まったく異なる分野で活動する方たちがとけ合って(とけ合わなくても)予想もしなかったものが出来る倶楽部になれば面白いと思います。

A:単なるサークルを立ち上げる機会を藤本さんから頂いたのではなく、センターやボランティアについて考える機会として与えてもらったものと思いつつあります。

Q:「京都芸術倶楽部」に参加してみて、いかがでしたか?

A:ボランティアの人たちは楽しんだ人も多かったと思いますが、たまたま来た一般の人たちが「?」という感じで帰ってしまった企画もあったので、一般の人が入りやすい雰囲気作りも大切だったかなと感じました。

アンケート

A：ワークショップイベントの講師の指名を受けてから、私で良いかと考えました。奥脇様、山本恵子様やサポートの御方に助けていただき、短い時間でしたがご参加してくださいました方と楽しく手芸を進めることができました。有難うございました。

A：展覧会をつくるということ、人に見られるということ、多くの人の前で話すということなど活動の中での体験が様々な学びと気付きをもたらしてくれた。深く広い、よい経験ができた。

A：芸術センター内の人（職員の方々）ではなく、外の人（ボランティアさん）が企画して動いていたので、親しみやすさがより増していた気がします。

A：初めてお会いする方々がたくさんいて、ひとつの空間にいろんな人、もの、会話、活動が生じて、「京都芸術倶楽部」というアートが芽生えたようだった。非常に楽しかったし、参加できて本当に良かったです。もしかすると、こういう出会いや活動がまた次に繋がるかもしれないし、どんどん回を重ねて異なった空間が創れたら楽しいと思います。

A：一時的なサークル活動で終わらないか気になった。期間の短縮や我々の知らない課題があったのではないだろうか。藤本さん山本さんを含む評価会を是非。

編集後記

ボランティアスタッフ
土持瑠理

アーカイブって具体的にどんな風に作成していくんだろう，とそんな初歩的な疑問をもって参加した私ですが，全ては「やってみたい」というわくわく感からでした。新しいこと，何かを創ること，人と関われることは，私にとってとても大事だからです。実際にやってみて，色んな創造や関わりがあったし，なかでも今回イラストを描かせていただき，とても新鮮なパワーをもらいました。

きっとこのアーカイブが読者の方へ色んなコミュニケーションを取ろうとしてくると思いますので，是非様々な気持ちで受け止めていただき，皆様それぞれのてんとうむしフォルダに保存していただけたら嬉しいです。
最後まで携われたことに本当に感謝します。

ボランティアスタッフ
早川七月

私はこの活動を会期終了後も多くに人に知ってもらいたく，また関わった人たちが振り返るためのものが作りたく，報告書作成を決めた。そして，多くの方々に支えてもらいながらできたのがこの報告書である。見守ってくださったボランティアスタッフと京都芸術センターのみなさん，報告書制作チームの印田さんと土持さん，寄稿をしてくださった安河内さん清澤さん山本さん，デザインを引き受けてくださった大西さん，コーディネーターの奥脇さん，みなさん本当にありがとうございました。この報告書は完成し留まるのではなく，誰かの中でボランティアについて考えるためのキッカケであり続けてほしい。

ボランティアスタッフ
印田由貴子

アーカイブ制作では自分のできることを探し，手探りの状態から始まりました。それは，いつも到着点を提示してもらっていた今までのボランティア活動と違って，自分たちで道もゴールも作っていく作業でした。そこでは迷うことや分からないこともありましたが，多様なジャンルのボランティアスタッフの方々と作業することで，学べることがたくさんありました。また，自分の立場からどのように芸術を支えることができるのかということを考えるきっかけにもなりました。

このアーカイブが，読んだ方にとって何かを感じ，考える契機になり，京都の芸術発信の場がますます発展していくことを願っています。

京都芸術倶楽部
KYOTO ART CLUB
ARCHIVE

2012.3.20 — 3.25

執筆者

印田由貴子 || 京都芸術センター | ボランティアスタッフ

奥脇嵩大 || 京都芸術センター | アートコーディネーター

清澤暁子 || 京都芸術センター | 元アートコーディネーター

土持瑠理 || 京都芸術センター | ボランティアスタッフ

早川七月 || 京都芸術センター | ボランティアスタッフ

安河内宏法 || 京都芸術センター | 元アートコーディネーター

山本恵子 || 広島県立美術館 事業推進課

デザイン || 大西正一

編集 || 印田由貴子, 土持瑠理, 早川七月

監修 || 奥脇嵩大

製作 || 京都芸術センター

京都芸術倶楽部

製作日 || 2012年6月25日